

令和3年度 第1回総合教育会議 会議録

1. 開催日 令和3年7月21日（水）
2. 会場 文化創造センター 会議室
3. 開会及び閉会時刻 開会15時00分 閉会16時00分
4. 出席委員 森田村長
上田教育長、加藤委員、山口委員、濱本委員、川田委員
5. 議場への出席者 阿部教育次長（説明員）、西田指導参事（説明員）
野原補佐（記録者）

議事の概要

- 教育次長 それでは、ただいまより、令和3年度第1回総合教育会議を開催します。開会にあたりまして、主催者であります村長からご挨拶申し上げます。
- 森田村長 令和3年度第1回目の総合教育会議ということで、お忙しい中、お暑い中お集まりいただきましてありがとうございます。6月30日から村長2期目ということとなりました。公約については、後ほどお話しさせていただきたいと思います。新しい教育長を迎えて、いろいろな面で新しい動きが出てきています。報道でもご覧になっていると思いますが、郷土教育に力を入れてくださったり、また子供達の検定についても力を注いでほしいとお願いしているところです。山村留学については課題もありますが、初年度課題が出てきて、住民にとっても我々にとっても大きな資産をいただいたと思っております。いずれにせよ総合教育会議で情報共有させていただき、中札内村の子どもたちが、活き活きと暮らしていける教育の在り方を模索できる場になればと思いますので、ご意見をよろしくお願いいたします。それでは議事を進めさせていただきたいと思います。
- 日程第1の会議録署名委員は加藤代理にお願いしたいと思います。
- 日程第2の議案第1号中札内村教育大綱の策定について説明願います。
- 教育次長 現在の第2期教育大綱を参考に資料として付けています。現在の教育大綱は令和3年度までの4年間としており、村のまちづくり計画に合わせた形となっています。令和4年度を始期とする4年計画を策定することになります。総合的な施策について基本方針、地域の実情に合わせて策定することになっております。期間については当初3年間でしたが、第2次から4年間としています。地方教育行政の組織及び運営に関する法律で定められており、地方公共団体の長がこの総合教育会議での協議を経て策定することとなっております。
- 次期4年間の計画を大きく変える考えはありません。まちづくり計画に沿った形で作っていかうと思っています。今日は具体的な内容を協議するのではなく、別紙のスケジュール案について協議していただきたいと思います。
- 森田村長 第3次教育大綱の策定スケジュールについて説明がありましたが、ご質問などございませんか。教育の基本は変わらないですが、どう中札内らしい肉付けをしていくのかが重要だと思います。策定へのご協力をお願いいたします。

加藤代理 1 2 月上旬で策定となっていますが、いつまでに策定すれば大丈夫ですか。

阿部次長 令和 4 年 4 月スタートですので、3 月までです。

加藤代理 まちづくり計画を基本として教育大綱を策定していくのであれば、まちづくり計画が 9 月下旬の素案作成ですので、第 2 回総合教育会議を 10 月下旬に開催しても、しっかりしたものができていないのではないかと。

阿部次長 並行した形で進めていけるかなと思って、このようなスケジュールとしましたが、教育大綱は議会にかけることはないのでずらすことは可能です。

加藤代理 大きく変わることはないだろうけれども、順番としてはしっかりとしたまちづくり計画があつての作成の方が、筋が通ると思いますので、スケジュールを 1 ヶ月遅らせた方がよいと思います。

森田村長 まちづくり計画と並行した形となり、時間的な猶予がない形となっていますので、1 ヶ月遅らせるスケジュールでよろしいでしょうか？

全 委 員 了承

森田村長 他にご質問などありますか。ないようですので続きまして、日程第 3 の協議第 1 号教育行政の課題についてお願いします。

阿部次長 森田村長の 2 期目の公約の関係になります。中札内村の目指す姿「優しく穏やかな村」実現アクションプランについてです。項目としては 20 項目あり、教育関係では③未来へ前進する希望の村、①1-2、1-3 とありますので村長からご説明をいただきたいと思います。

森田村長 公約ということで、6 月の村長選挙の前にお示しさせていただいたものとなります。先ほど教育次長からお話しがありましており、一期目より精査した形となっております。3-1 ICT についてですが、昨年一斉休校ということがありまして、その中で ICT を利用した教育で日本が遅れているという指摘もあり、国もギガスクール構想を前倒しして進めてきています。中札内村は全児童生徒にタブレット一人一台が配置されてきております。タブレット機器自体は、ただのデジタル機器ですので、タブレットやソフトウェアを絡めて、どう子供達の学び、個別最適化、習熟度を測るというのは人間が対応するのは、難しい面があります。私のゴールとしては AI を使った習熟度、算数でつまづいて勉強が苦手になることがすごく多いので、そのあたりを AI が担当して先生たちの教育に活かしたらということと令和 2 年度からギガスクール構想の担当者には話をしているところです。それについては、現場の考えもあると思いますので、しっかり議論をした中で、ICT を使ってどんなことができるのか、子供達、住民の学びにどのように貢献することができるか、しっかり検証した中で進めなければいけないと思い盛り込ませていただきました。特に、ギガスクール構想は国から予算がつきまして進めることができました。今回導入したタブレットは、間違いなく 6 年後くらいに更新時期となり、更新する議論が出てきますので、単費でもやる必要があるのかとなったときに、今の最初の時期がとても重要だと思っています。

続いて 3-2 英語をはじめとする検定受検補助の拡充ということで、模擬議会で、子供達から英語だけではなく色々な検定にチャレンジしたいという要望が寄せられています。英語を核とすることはよいのですが、子供達の可能性を広げるという点では、英語以外の検定受検補助について進めていきたいと考えています。

3-3 高校生の就学支援事業の新設については、令和 2 年度中に議論をして

きており、先月の臨時会で提案させていただいています。子供達の学びを経済的に支援するもので、所得に関係なく月額1万円を助成します。

3-4 生涯学習を深化させる「学び」の提供ですが、当初真の生涯学習の実現となっていました。「真の」というと今までが真ではなかったのかというご指摘をいただいた。超高齢社会、人生100年と言われている中で、学び直しやキャリアアップ、すそ野を広げていくという点で、高齢者の余暇を埋めるためのものではなく、人生100年をどう生きていくのか、高齢者であってもいつまでも成長できることを理解していただける様々な生涯学習、高齢者だけではないですが、喜びを感じてもらえるような取り組みをしていきたいという思いからです。

3-5 山村留学制度を活用した学びの充実と地域の活性化についてですが、これについては表現が難しいです。これからも続けていけるのか、地域の方々の考え方も大きいですし、今年度始まって地域の方も、上小の子どもたちも喜んでいるという面もあれば、まずはしっかり喜んでもらえるような制度として運営していかなければならない。これは、非常に難しいことです。上札内で生まれ育った子供たちがいなくなることがはっきりしていることですので、その中で山村留学を続けるのか、続けないのか。その大きな決断をそう遠くないうちにしなければなりません。これについては地域の声を無視した中で続けるという意味ではありません。続ける以上は最高の制度、満足してもらえる、やって良かったと思える制度にしていきたいと思い公約に盛り込ませていただきました。

続いて、コロナ禍での選挙ということもあったので、3-6 コロナ禍でも停滞させない学校・社会教育の実現ということで書かせていただいております。どのような状況でも、学校教育、社会教育をしっかりと正しい知識の中で続けていく努力をするという意味です。

3について説明させていただきましたが、教育という点に関わる部分が1と2にもあります。1-2 健康づくりです。これについては保健サイドだけではなく、運動関係の事業もありますので密接に連携する中で、様々な成果の上がる事業を展開していくということです。1-3 の音まちプロジェクトですけれども、ファツィオリピアノを導入し、北の大地ビエンナーレの資源を活用して、文化にあふれる村づくりを積極的に推進していくということです。2-4 日高山脈襟裳十勝国立公園についてです。まだ、十勝が入るかわかりませんが、戦略資源化については、PR実行委員会で村が事務局を担当しています。実行委員会に教育委員会の職員も入ってもらっていますので、教育委員会にもかかわる事業であります。2-6 SNSを活用した組織的な情報発信体制の構築です。教育委員会でも音まちプロジェクトがツイッター、インスタグラム、フェイスブックを始めています。これについては、自分たちの仕事を知ってもらうことは、村の総務課がやれば良いということではなく、それぞれのチームとして考えて盛り上げてほしいということです。以上、雑ぱくですが教育委員会に関わる実現アクションプランについて説明させていただきました。何かこのことについて、ご意見などがありましたらお願い申し上げます。

川田委員

今は英語検定に対して補助を出してもらっているのですが、子供達の方から他の検定も、という意見があったというお話がありましたが、ただ受ける人がいないのであれば意味がないのでリサーチして、中学生にはどうい

うのが必要なのか、小学生にはどうするのが良いのか、調べた上で拡大していく方がよいのでは。英語に限らなくてもよいと僕は思っていますが、子供達の要望に応えられていく形で進めてもらえればと思います。

上田教育長 英語については以前から必要ということで、年3回補助しています。年3回のうち、1回は英語、残りの2回については今回残念だったけれどもう一度トライしたいということで英語でもいいし、漢検でも数検でもいいよ、というような選択の幅を広げる。小学校の低学年は英語活動がないです。ジュニア英検もあり、受けられないことはないですが、現実的には授業でやっていないということもあるので、低学年は漢検の方が現実的ということがあります。内容的に英検は1回、それ以外は3つの中から選択できる拡充ということであれば、子供たちの選択も増えて、現実的にも合っていると思っています。

山口委員 模擬議会でも出ていたことなので、子供達も言って良かったと思ってくれる。

森田村長 川田委員が先ほど言われた通り、それに挑戦したいという気持ちが大事。学校の先生方からの働きかけも大切になってくると思います。

山口委員 3-4 生涯学習を深化させる「学び」について、具体的に村長はどのようにお考えでしょうか。

森田村長 今の60代、70代は昔の60代、70代と全く違います。こういったことということはないのですが、一例をあげると職員にオンライン研修があるから見るよう指示したのが、テレビゲームで太鼓の達人や、簡単なレーシングゲームを使って高齢者に体験してもらう。テレビゲームを使った機能強化、教養につながるような講演会、ポロシリ大学でしているのは昔ながらの合唱など、それもよいのですが、若々しくなっている高齢者に向けたメニューを研究していけばよいのではないかと思います。しっかり情報収集して、全国ではどんなメニューがあるのか研究した上で、今の高齢者にあったメニューを構築していくことが大切ではないかと思います。ゲームは一つの例です。企画、福祉、教委などで連携してメニューを考えて行く必要があると思っています。

山口委員 学びを、村に還元できたり、子どもたちとのかかわりに使ってもらったりと、自分だけではなく共有できるようにしてもらいたいと思います。食事をつくることを学んだ人が子供達の食事を提供するとか、もう一度社会に何か利用できる、社会の役に立てれるよう、つながっていけるように構築できるといいなと思います。

森田村長 生涯学習で自分が成長すると、たぶん社会に還元したくなると思います。社会への貢献の方法は、それぞれの価値観があって違う。自分たちは成長できて、社会の一員で貢献できるということを気づいてもらう切っ掛けをつくるのが生涯学習ではないのかと思います。最終的には社会とつながって必要とされることが大切かと思います。

濱本委員 生涯学習のところで、学びの共有というのがすごくいいと思いました。60代の高齢者は、実際自分は高齢者と思っていないと思うし、勉強はそれぞれでしている年代だと思います。

森田村長 かなり変わってきている。だからこそ生涯学習は難しい。多様化している生涯学習とは何だろうか。そこが出発点だと思います。

濱本委員 食育サポーターさんや花づくりの会、図書ボランティア、女性が単発で活

躍する場はあるのですが、男性は働いている人が多いです。一工夫しなければならぬと思います。SNSをして村の魅力を発信するとか、ボランティアの方を応援して学びを共有して幅を広げるのが理想的かなと思います。

森田村長 食育サポーターさんや花づくりの会、図書ボランティアの方は熱意があつて、活き活きと活動されている。

濱本委員 男性の力も必要だと思いました。男性も入りやすい工夫が大事かなと思いました。

森田村長 男性は仕事をやめてから、どう社会と関わっていくことが大切か。どう男性を引き込むか。

公約について職員に説明しましたが、成果を徹底的に追求すること、情報を届けること、参加してもらってどうだったか検証する。努力がどのような結果に結びついたかと認識してほしいと伝えています。

山口委員 確かに、ギガスクール構想を充実させることはとても大切なことだと思います。でも反対に ICT が進めば進むほど、子供達の五感、自然の中で色々なものを感じることが薄れてくる。先ほど、オンラインの話がありましたが、私もヨガをやっています。教室でやるのとオンラインでやるのとでは、学ぶ深さが全然違う。そこで空気感を感じたり、目から耳から臭いから、そういうところから ICT が進めば進むほど、五感の感覚を研ぎ澄ませることを合わせて、充実すると思います。中札内村は自然豊かなので、取り入れてほしいと思います。

森田村長 東大に合格させるプロジェクトで「AI に負けない子供を育てる」という本を出版している新井紀子さんの講演会があり、まったく同じことを言っていました。幼少時の子どもたちには、どれだけ五感を養わせるかが大切で、AI を研究している先生なのに、実はタブレットを児童生徒に配布することにあまり賛成していなかった。生き物である以上は自然の中で暮らすことが大切で、バランスなんです。AI、ICT には得意なところがあり、人間には絶対できない能力をもっているの、そこは使わせてもらう。人間だからできる教育、そこに ICT をどのように入れていくか、手伝わせるか、そこが重要だと思っています。学びの充実に ICT を使っていくのかを研究していきたい。そういった面でバランスが大切です。

加藤代理 山村留学のことです。一番問題なのが、上小で過ごしてもらうためには上小地域の住宅問題が来年についても心配という話が出ています。住宅問題は教育委員会でできることではないです。山村留学制度を進めていくのであれば、まず住宅体制をきちんとしないと、募集だけして住宅はありませんでは困るので、具体的にそのように進められるのか、総務課や議員さんと話しをしながら、上札内地域の空き住宅、今回も教育委員会で探しましたが、ぜひ山村留学を通して地域の活性化を考えるのであれば、住宅事情とかを含めて来年に向けて、予算化してもらいたいです。来年も2、3人と来た場合、今の状態だと上地区に住むことができず中札内から通うということになり兼ねない。地域の活性化にならない訳ではないが、半減してしまいます。村としてやってもらわなければならない所は、村として考えて欲しい。早急に住宅事情については、関係する課の方と相談して来年に向けて、できれば次回の総合教育会議までには、こういう方向の目途が付きましましたと報告してもらわなければ、募集する方も安心して募集できない

と思います。受け入れる側の責任だと思いますので、きちんとしていただきたいという要望です。

森田村長 毎月、庁議という幹部の会議がありまして、問題提起されています。各課で調整すると意識共有はされています。現実問題として、何ができて何ができないのか、私も報告は受けておらず、今検討してくれていると思いますので、今はこういうことができますとお話しできませんが、教育委員会だけに任せている訳ではなく、総務課も施設課も情報は共有して、しっかり協議していくと話をしていましたので、やっていってほしいと思います。

加藤代理 方向性については、次の総合教育会議で示してください。そこで示されなかったら、来年の募集が困ることになると思います。ここで約束してくださいではなく、方向性をきちんと出すための議論をしておいてほしいということです。

森田村長 議論してくれと言っていますので、進めてくれていると思います。
阿部次長 上札内の活性化ということがありますので、公営住宅を確保したいのですが、移住という形が優先だろうという考えがありますので確保ができない。そこが課題になってきます。空き住宅について、よい形で進められればと思っています。

山口委員 空き住宅のことですが、ヨガに山村留学のお母さんが来てくれています、上札内市街に住んでいる方は学校にも近くて、近所もあり親切にしてくれるので、すごく安心して住んでいられるようです。アトリエの方の住宅は、ちょっと離れすぎる、寂しすぎる、自然を求めてすごくいいなと思っても、夜になると不安になる。

上田教育長 中西議員からも活性化ということが出ていたので、3-5については1-6と合わせて、分譲宅地に限らず公営住宅も含めて移住定住の促進というのがないと、教育委員会が地域の活性化というのはなかなか難しい。二本立てになっているのですが、片方の上小のことは、もちろん教育委員会ですが、地域の活性化というのは1-6が入ってこないと厳しいかなと思います。

森田村長 山村留学制度については、教育委員会だけではなく、募集の中心は教育委員会ですが、それ以外については当然他の関係課が関わっていないといけないので、その意識はあります。

上田教育長 ここに文言を入れれば良いと思います。移住定住の促進に施設課や総務課が入る。ここにはないと伝わりずらいです。

森田村長 総合計画の取りまとめは総務課でしていますので、ここでそうしますという訳にはいきません。

加藤代理 要望だけにしておいてもらえば良いと思います。

山口委員 日高山脈の国立公園化についてですが、ビジターセンターが中札内村にできたら、皆さん来られると思います。

森田村長 ビジターセンターをどこに建てるかは環境省が決めます。非常に政治的な話になります。山の中に建つことになると思います。

山口委員 ビジターセンターが上札内に建つと、住宅も増えるのかならないかなと思います。

森田村長 中札内村にビジターセンターが来てくれたら良いと思います。
他に何かなければここで会議を閉じたいと思いますが、よろしいでしょうか。有意義なご意見を聞かせていただきました。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

令和3年7月21日

村 長 森 田 匡 彦

教 育 長 上 田 禎 子

署名委員 加 藤 淳 司

記 録 者 野 原 誠 司

